1Ua-1

東京都世田谷区在住夫妻の生活時間-1995年調査　第1報　目的・方法・概要

○天野寛子[*] 堀内かおる[**] 伊藤セツ[*] 森ます美[*] 斎藤悦子[*] 松葉口玲子[*] 伊藤純[*]
天野晴子[***] 水野谷武志[****]（[*]昭和女大、[**]鳥取大、[***]青葉学園短大、[****]法政大）

目的：1995年、北京で国連第４回世界女性会議が開かれた。そこで採択された「行動綱領」の中では報酬のある無しを問わず、人間の経済活動を記録し量的に測定するために生活時間調査が重要であることが再確認された。本調査はこの「行動綱領」の指摘と連動したものである。本報では、本調査の方法、調査協力者の特徴及び生活時間結果の概要を述べる。

方法：調査日は1995年10月の平日・休日の各１日である。世田谷区在住の未婚の子どもと同居している夫妻に公募を行い、調査協力を申し出た人に対して生活時間票及びｱﾝｹｰﾄ用紙を郵送・回収した。自記・留置方式である。分析はｼﾞｪﾝﾀﾞｰ視点に基づき、妻の就業形態別・夫妻の企業形態別に行った。本調査は世田谷女性ｾﾝﾀｰらぷらすの助成・委託を得た。

結果：調査協力を申し出た夫妻は160組、有効回収数は129組、計258人であった。平均年齢は夫42.8歳、妻40.8歳、平均世帯人員は4.2人であった。生活時間調査結果の一部を表に示した。調査協力者の特徴は、就学前の子どものいる常勤夫妻が多かった。時間調査結果の特徴は、過去20年間（５年毎に４回）に実施した調査と比較して、1.勤務時間は時短の要請にも関わらずむしろ増加していた。2.夫の家事労働時間は、全体的に僅かながら増加していた。3.上記のしわ寄せを受けて生理的生活時間及び社会的・文化的生活時間は減少の傾向にある。

平日の夫妻の生活時間（単位：時間　分）

妻の就業形態別	妻常勤		妻パート		妻無職	
夫妻別	夫	妻	夫	妻	夫	妻
生理的生活時間	9.54	9.47	9.47	10.22	10.09	11.03
収入労働時間	10.52	8.42	11.47	6.02	11.31	0.45
家事的生活時間	0.50	3.30	0.05	4.35	0.19	7.38
社会的・文化的生活時間	2.24	2.01	2.21	3.01	2.01	4.34
合計	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00	24.00